

ルーキープログラムが始動 ～世界基準の選手強化システムが完成へ～

ジュニアからプロまでの一貫した育成強化システムのカギとなる若手プロゴルファーを対象にしたルーキープログラムが今年秋、本格始動する。日本人選手の国際競技力向上に大きな期待が寄せられる同プログラムの内容や目的をルーキープロ強化委員会委員長でもある服部道子JGA常務理事に聞いた。



服部 道子 (はっとり みちこ)

1968年生まれ、愛知県出身。高校1年時(1984)に日本女子アマを当時の最年少記録で制し、85年には全米女子アマ優勝。91年プロ入り、98年に賞金女王となる。今年JGA常務理事に就任。JOC理事も務める。

—— まず、ルーキープログラムとは、どのようなものなのかお聞かせください。

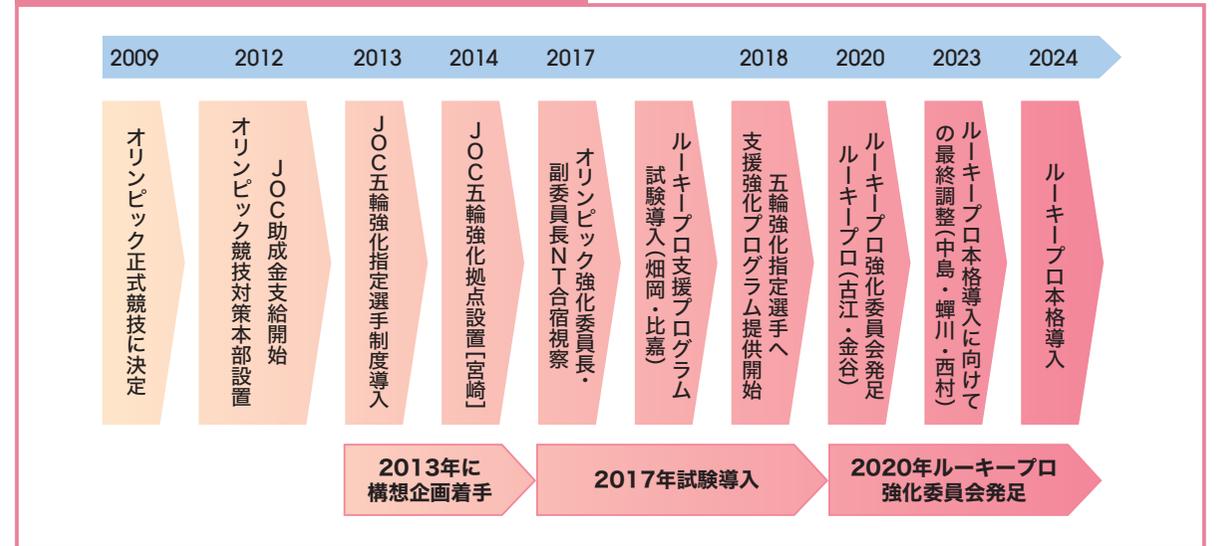
服部 アマチュアの世界とプロの世界では異なるところが多いと思います。たとえば、プロになれば毎週のようにあるトーナメントを乗り切る体力やモチベーションの維持が必要です。JGAナショナルチームで活躍していた選手でもプロになった時に環境の変化に戸惑い、実力を出せなくなることがあります。プロになったらそこで我々との関係が終わりになるのではなく、必要とする選手には引き続きJGAナショナルチーム時代のようにサポートしてプロの世界でも実力を発揮しやすい

環境をつくることを目的としたのがルーキープログラムです。

—— 服部さん自身、オリンピックのコーチもされています。オリンピックの代表選手は国のトップクラス。そこまでつながっていくプログラムなのでしょうか。

服部 オリンピック代表選手はプロですが、管轄はJGAになります。頂点を目指すというところでは一連のパスウェイ(過程)の流れとしてサポートしていくことが重要。今後、このパスウェイをトップのところまで構築していきたいと思っていますし、それが日本ゴルフ界の競技力の底上げになっていくと考えています。

ルーキープログラム発足までの経緯



—— ルーキープログラムはオーストラリア人のガレス・ジョーンズヘッドコーチ(HC)をはじめJGAナショナルチームのコーチ陣が担当になっています。2015年に現HCが就任してJGAナショナルチームの体制が大きく変わったことがルーキープログラムにもつながっていると感じます。

服部 それはあると思います。グローバルスタンダードという面ではガレスHCは世界のいろいろな協会のコーチとの横のつながりがありますから、さまざまな最新情報をくみ上げて常にアップデートできるという利点はあります。

—— 選手にとっては日ごろから彼らと交流することで、英語の習得など海外で戦う準備がしやすいのもメリットではないでしょうか。

服部 おっしゃる通りですね。英語もそうですし、カルチャーやマインドの面でもメリットはあります。ガレスHCはどちらかというと伴走型のコーチ。「君はどう思う」と自分で考えさせるコーチングです。日本人は控えめで、自分からというところがあまりありません。ですから自分主体で考えるというマインドを育むことは海外に出た時に大いに役立つと思います。これまで日本人選手は海外に行く戸惑う時間が長かったのかなと感じていましたが、若いころからこのような経験を重ねていくとより早くパフォーマンスを発揮できるようになるのではないのでしょうか。

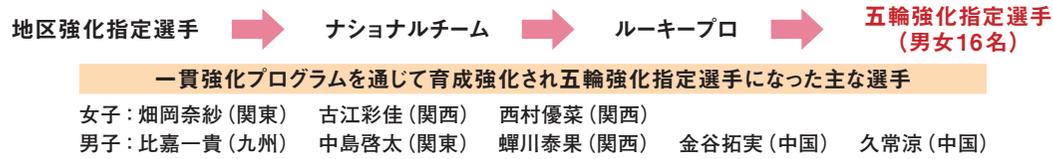
—— コーチ陣はいろんな分野の専門家がひとつのチームになってやっていますね。

服部 分業ですね。今の時代、栄養面でも体のことでも、そして、スコア分析、メンタルパフォーマンスなど、多くの専門分野において、より深い情報を求められており、各分野、常にアップデートされています。分業化したほうがより深く、必要な情報を選手に与えてサポートすることができます。今、分業化したチームが一体となって同じ方向を向き、選手を中心にしたいい形ができています。

—— コーチ陣以外はどのような方が担当されているのでしょうか。

服部 JGAの中にルーキープロ強化委員会を設置し、現在、委員長の私と馬場ゆかり委員の計2名が在籍しています。女子2名というのは理由があります。男子選手の場合は大学まで行ってからプロになるケースが多く、ガレスHCらがサポートする時間はあるのですが、女子の場合はほとんど高校3年でプロテスト受験になりますからJGAナショナルチーム在籍期間が短いのです。しかもプロテストの合格枠が20位タイまでとハード(男子の資格認定プロテスト合格は50位タイまで)なので、そこでプレッシャーを感じ、実力を出せないまま失敗して苦しんでいる選手がいます。その部分のサポートも大事ということで、女子プロテスト経験者である私と馬場さんが担当となりました。これからプログラムを進める中で、どのようなことが必要なのかが出てくると思いますから、男女プロゴルファーが在籍しているJGAアスリート委員会の委員に協力していただくなど柔軟に対応していこうと考えています。

強化システムによる実績 地区強化指定選手から五輪の強化指定選手へ



ジュニア時期からプロ転向後、停滞することなくスムーズに競技力を向上



古江彩佳 畑岡奈紗 比嘉一貴 中島啓太 蟬川泰果 金谷拓実

—— 本格的なスタートは今年からですが、ガレスHC就任時にJGAナショナルチームに在籍していた畑岡奈紗選手らはすでにプロ転向後も引き続き指導を受けていました。

服部 はい。当時、まだ私は携わっていませんでしたが、どのようなサポートが必要なのか、試験的にやっていたと聞きます。畑岡さんの場合は高校を出てすぐにアメリカに渡りました。当時は宮里藍さんが第一線を退くなどしてアメリカでプレーする日本人選手の数が少なくなっており、不安な要素も多かったので彼女自身がサポートを求めているようです。畑岡さんをはじめ女子はJGAナショナルチーム出身者が次々に米女子ツアーで活躍するようになりましたし、男子でもガレスHCに学んだ金谷拓実さんや久常涼さん、中島啓太さんが海外で優勝していますから、有益なプログラムだと証明されているのではないのでしょうか。

—— ルーキープログラムの本格始動でさらに日本人選手の活躍が期待されるのではないのでしょうか。

服部 そう感じます。よりアップデートされた世界の情報を各分野の専門家が得ながら共有し合い、各選手がそれぞれ必要なものを落とし込みながら自分の目標に向かって自信を持って進めると思います。また、結果を出した選手たちが後輩たちの芽を伸ばしていってくれることも期待できますので、いい形で流れていってくれるのではないのでしょうか。これからもトライアンドエラーをしながらブラッシュアップしていきたいと思っています。



シヨートゲームの練習をする杉浦悠太



スイングチェックを受ける杉浦悠太



フィジカルチェックを受ける米澤蓮

ルーキープログラム概要説明

ルーキープログラムの構想に着手したのは2013年のこと。ゴルフがオリンピック正式競技に復帰したリオデジャネイロ大会(2016年)を控え、JOC五輪強化指定選手制度を導入した年だった。

オリンピックをはじめとした国際競技で日本人選手が結果を出していくためにはアマチュアとプロの垣根を取り払い、一貫した育成強化体制が必要との認識からだった。

この構想を推し進める大きな要因となったのが、2015年にJGAナショナルチームのHCを初めて海外から招へいたことだ。HCに就任したのは英国出身のオーストラリア人でコーチを務めたガレス・ジョーンズ氏。低迷していた同国のナショナルチームを復活させた実績を持つ同HCはフィジカルや動作解析など各分野の専門家とチームを組み、科学的なアプローチによる世界最先端の強化プログラムで選手を指導。就任直後にノムラカップアジア太平洋アマチュアチーム選手権を26年ぶりに制して優勝、翌2016年にはJGAナショナルチーム在籍中だった高校3年の畑岡奈紗が日本女子オープンで優勝するなどすぐに結果を出した。

日本女子オープン優勝後にプロ転向した畑岡らに対し2017年からルーキープロ支援プログラムを試験的に導入。引き続きJGAナショナルチームコーチ陣のサポートを受けることになった。

さらに、2020年にはルーキープロ強化委員会を発足させてルーキープログラムの本格導入に向けての道筋を整備していった。

なぜプロ団体ではなくJGAがプロゴルファーのサポートをするのかという疑問を持たれる方がいるかもしれない。理解していただきたいのは、このプログラムはスポーツ庁が策定した「持続可能な国際競技力向上プラン」に準じたものであるということ。このプランでは、ジュニアからプロまでシームレスな一貫育成強化システムを構築し、国際競技力を向上させるには中央競技団体(NF)が総合的・計画的に取り組むことが不可欠とされており、ゴルフのNFであるJGAが担っているわけだ。

JGAが採用している一貫育成強化システムはFTEMモデルと呼ばれており、海外のゴルフ団体を含め、国内外の多くの競技団体が活用している世界基準の強化システム。各地区のジュニア競技などから有望選手を発掘し、国際舞台で活躍できるまでに育成・強化していくもので、最後のピースであったルーキープログラムの導入によって完成したといえる。

ルーキープログラムにはJGAナショナルチーム卒業生だけでなく在籍経験がなくても条件を満たせば参加できる。費用はJOCから支給される助成金の一部などが充てられる。

JGA FTEM 一貫育成強化システム



ルーキープロ インタビュー

ルーキープログラムは今年春からプレ合宿を繰り返して10月の本格始動に向けて準備を整えている。プレ合宿に参加した選手の中からプロ1年目の大嶋港と、今年の中日クラウンズでプロ初優勝を飾った米澤蓮に、このプログラムについての感想や効果を語ってもらった。

信頼できるコーチ陣の存在がプロ初優勝につながった

JGAナショナルチームに在籍した4年間でレベルアップできたと思っていますし、オーストラリア人のコーチらと日常的に連絡を取り合ったり、一緒に過ごしたりしたことは自分にとって刺激的でした。コーチ陣は選手個人を尊重してそれぞれに寄り添った指導してくれる。技術面だけではなく英語力を磨いたり、海外の環境、文化に触れるなど多くのことを学ばせていただき、それが自分の中で大いに役立っています。プロになるとその関係が終わってしまうのはつらいところがありましたが、引き続きサポートしていただけるのは何より嬉しいことです。

彼らは信頼でき、相談できる存在。そんな人がいることが1年間戦う上で技術よりもむしろ大事なことなのではないかと感じています。プロになって苦しい時期がありましたが、近くに相談できる人がいたからこそ乗り越えることができて、今年5月の初優勝につながった。そう感じています。



米澤 蓮 (よねざわ れん)
1999年生まれ、岩手県出身。2018年からJGAナショナルチームで活躍し、同年のアジア大会で団体金メダルに貢献。21年末プロ転向。2024年5月の中日クラウンズでプロ初優勝。

ナショナルチームと同じ環境で練習できることに感謝

JGAナショナルチーム時代から各分野のコーチが専門的に教えてくれて、素晴らしい環境だと感じていました。技術面はもちろんのこと、フィジカル、メンタル、栄養面などすべてに新しい発見があって非常に役立っています。プロになってもこのように同じ環境で練習させていただけるのは嬉しいこと。サポートを受けられる間に得られるものは全部吸収して、プラスにしていきたいですね。

それに、合宿では中島啓太さんらすごい先輩たちと一緒に過ごせることが本当にいい勉強になります。練習が終わった後も食事をしたり、温泉に入ったりしながら海外のことなどいろんな話を聞けるのがすごくいい経験になっています。トーナメント会場ではなかなかそこまでできないですから、このような機会があります。私も将来は先輩方のように実績を積んで、後輩に自分の経験を伝えていけるような存在になりたいと思います。



大嶋 港 (おおしま みなと)
2005年生まれ、岡山県出身。21年、関西高校1年時に日本ジュニアで優勝し、22、23年とJGAナショナルチームに在籍。プロ転向初年の2024年にABEMAツアーでプロ初優勝を飾る。

個人・法人のご寄附は税制上の優遇措置を受けることができます。

選手の育成強化
日本代表支援
**寄附金
募集中!!**

世界へ羽ばたけ ゴルフ日本代表

国際競技において、活躍できる選手の育成強化並びに国際競技への日本代表選手派遣のため、皆様のサポートをお願いいたします。

募集対象

- 1 選手強化プログラムの構築
- 2 国際競技への日本代表選手の派遣や強化合宿の実施
- 3 指導者育成強化プログラムの構築

国際大会で活躍する日本代表選手をご支援ください

ナショナルチームヘッドコーチ ガレス・ジョーンズ



日本代表女子コーチ 服部道子 日本代表監督 丸山茂樹

●募集期間

2022年4月1日～
2025年3月31日

寄附金申込

クレジット決済と銀行振込からお選びいただけます。
www.jga.or.jp/jga/html/donation



2022年度ナショナルチーム